

平成28年第4回燕市議会定例会  
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者		質 問 方 式	
				一 括 質 問	一 問 一 答
12月12日(月)	午前	1	中島 清一 議員	○	
	午後	2	渡邊 雄三 議員		○
		3	白井 丈雄 議員	○	
		4	山本 知克 議員		○
13日(火)	午前	5	樋浦 恵美 議員		○
		6	タナカ・キン 議員		○
	午後	7	堀 勝重 議員		○
		8	柳川 隆 議員		○
		9	土田 昇 議員		○
14日(水)	午前	10	大原 伊一 議員	○	
		11	齋藤 信行 議員	○	
	午後	12	大岩 勉 議員		○
		13	宮路 敏裕 議員		○
		14	山崎 光男 議員		○
15日(木)	午前	15	山崎 雅男 議員		○
		16	小林 由明 議員		○
	午後	17	藤井 秀人 議員		○
		18	長井由喜雄 議員		○
		19	吉田 勝利 議員		○

平成28年第4回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	中島 清一 (一括質問一括答弁方式)	1. 働き方改革について	(1)イクボス宣言の取り組みについて	<p>①仕事と生活の調和を図るワークライフバランス実現のため「イクボス宣言」が10月31日に行われた。「イクボス」とは仕事上の部下の育児等に理解がある管理職のことで、県内では新潟県、新潟市に次いで3番目となる。宣言内容は①仕事と家事・子育て・介護などが両立できる職場環境の整備に努める。②効率的・効果的な業務執行のため、働き方改革を推進し、市民サービスの向上に努めるなど4項目が掲げられている。今後の取り組みについて、市内企業に取り組みが普及できるようにしたいとの考えが示されているが、具体的な方策について伺う。</p> <p>②介護を理由とした退職がなくなるように市内介護施設の充実を図りたいとしているが、今後の方針や計画について伺う。</p> <p>③女性の管理職登用を引き続き積極的に進めたいとしているが、今後における具体的な方針を伺いたい。</p>
		2. 高校の再編問題について	(1)吉田・分水高校の存続について	<p>①県の教育委員会が3月に策定した「県立高校の将来構想」を受けて吉田・分水高校が統廃合の対象になるのではと危惧されているところである。分水高校はすでに適正規模の最低ラインである4学級を下回る2学級で推移しており、吉田高校も現在はギリギリの4学級だが、平成30年には3学級に減り、4学級以下になる見通しで、両高校とも統廃合の可能性をはらんでいる。特色ある学校づくりが存続に向けたカギとなっているが、考えを伺いたい。吉田・分水高校の存続に向けた次なる一手は。</p>
		3. 今冬の除雪計画について	(1)万全な除雪体制について	<p>①平成28年度の除雪計画によれば、車道除雪は3地区合計437.9km、歩道除雪は104.8kmとなっている。そして出動基準は舗装道路上の積雪深がおおむね10cmを上回っている場合を標準とし、優先度の高い路線から出動することとしている。また、確保すべき状態としては自動車が通行可能で、歩行者は長靴、防寒靴で歩行可能な状態としているが、早朝除雪の対応については、市民の要望は高い。通勤時の早朝除雪、通学路の安全確保に努めてもらいたいと考えを伺いたい。</p> <p>②前年における問題点や苦情はどのようなものがあったか。</p>
		4. 市民の健康づくりについて	(1)県内初の子供向け健康ポイント制度の取り組みについて	<p>①平成26年度から市民の健康づくりのため「つばめ元気がやきポイント事業」を実施しているが、年々参加者も増えている。そして今年度は、子供の基本的な生活習慣の定着を目指して夏休みの期間中に「こども手帳」での取り組みが開始された。成果と評価について、対象者は市内幼稚園・保育園、こども園年長児そして小学校1、2年生、3～6年生は希望する児童としたとのことだが対象人数と取り組んだ人数は。</p> <p>②「ポイント報告用紙」と「アンケート」を提出してもらったとのことであるが、取り組まれた感想はどうであったか。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	中島 清一 (一括質問一括答弁方式)	5. いじめと不登校問題について	(1)本市の実態と対策について	<p>①あつてはならない事件が報道された。「原発避難いじめ」である。東京電力福島第一原発事故で福島県から横浜市に自主避難した中学1年生の男子生徒が避難直後の小学校2年生からいじめを受けていた。しかも小5の時には「原発事故の賠償金をもらっているだろう」と言われ、遊興費として1回あたり5万円～10万円を約10回、10人前後に支払いその支払い総額は150万円にも上るといふ。驚くのは生徒本人からの訴え、神奈川県警を通じて金銭の授受があったことを把握しながら学校側が抜本的な対応を講じなかったということです。</p> <p>県内では2015年度に把握したいじめの件数は3,055件で調査開始以来過去最多となったという。先月の11月もいじめを苦しめたとみられる自殺が相次いだ。本市における実態で、いじめの件数と対策について伺う。</p> <p>②不登校の件数と原因は何か。</p>
2	渡邊 雄三 (一問一答方式)	1. 第二次燕市総合計画について	(1)歩行者等にやさしい道路の改修・維持管理について	<p>①市道の危険箇所解消を図り、ユニバーサルデザインに配慮して市民が安全・安心で快適に利用できるよう、歩道や自転車歩行者道の整備を進めるとあるが、新年度予算編成に向けて市長の考えを伺います。</p> <p>②近年、市民または、自治会から道路の改修・補修の要望が多く出ていると思うが執行率はどのようになっているのか伺います。</p> <p>③近年、道路環境の不備で怪我、事故によって保険適用された事例があるのか、状況を伺います。</p>
		2. 障がい者支援施策について	(1)障害者差別解消法について	<p>①障害者差別解消法が本年4月の施行を受けて市としての取り組みについて伺います。</p> <p>②障がい者に対する理解を深める取り組みについて伺います。</p>
			(2)精神障がい者施策について	<p>①市内のグループホーム数と入所している障がい別人数</p> <p>②近年の障がい者数の推移と障がい者別の数値</p> <p>③精神障がい者の親亡き後も地域で安心して暮らすためのグループホームの設置について市の考えを伺います。</p>
		3. 安全・安心なまちづくりについて	(1)地域防災力向上について	<p>①防災リーダー養成講座の自治会数に対して参加率を伺います。</p> <p>②防災リーダー養成講座修了者の活躍の場について伺います。</p> <p>③基本となるのは自主防災組織であるが、自治会連携、自治体連携が必要でありそのためには、ボランティア団体、NPO法人等の育成が不可欠と思うが市の考えを伺います。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
3	白井 文雄 (一括質問一括答弁方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1)新潟県知事選挙の結果を受けて	①本市に係る 116 号線バイパスや県立吉田病院等への影響を考え、新知事への対応についてどのように考えるか。
		2. 水道行政について	(1)平成 27 年度決算等に係る諸元について	平成 27 年度決算関係について ①事業収益関係について。料金滞納と未収対策は。平成 28 年度決算見込みは ②賠償金事項について。放射能汚泥の実情はどうか ③有収率について。今後の見込みはどうか ④建設改良について。石綿管等の工事進捗等について ⑤退職給与引当金の経理について ⑥平成 27 年度決算審査に係る意見書への対応について
			(2)料金改定等の地元説明会等に係る対応について	今後の取扱対応その他について ①地元説明会等で出た質問の取り扱いについての対応は ②浄水場の耐震診断と補強はどうするのか ③水道管の耐震化率はどれくらいか ④計画策定後の地元、議会への説明はどうするのか
			(3)浄水場建設等に係る諸問題その他について	浄水場建設その他について ①基本計画の進捗状況はどこまで進んでいるのか ②新浄水場建設予定地は選定したのか ③補助に係る国との折衝状況と広域連携の進捗状況は ④水道水への異物混入の発生件数と水質問題の対応について ⑤今後の水道事業を巡る法改正と企業参入の動向について
4	山本 知克 (一問一答方式)	1. 防災について	(1)避難訓練等について	①平成 27 年、同僚議員が一般質問でも取り上げているが、その後の熊本地震・福島県沖の地震を受け、改めて自主防災組織の必要性を認識した出来事となった。避難訓練の参加者数や課題について伺う。 ②自宅で行うシェイクアウト訓練が話題となっている。避難訓練状況と併せてそれぞれの参加目標や達成率等の詳細な情報を市ホームページに掲載できないか伺う。 ③中央公民館の増築工事が完了し、近隣地区の避難訓練先はどのように変わるのか、訓練と災害時の避難先は周知されているか伺う。 ④一時避難場所から指定避難所への移動はどのように考えるか伺う。 ⑤実際の災害時に想定される避難者数はどの程度を想定するのか、また備蓄されている支援物資と賄える人数等について伺う。 ⑥災害時、通常の連絡手段が途絶えたときの連絡方法について

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
4	山本知克 (一問一答方式)	2. 犯罪から市民を守るために	(1) 消費者保護について	<p>①特殊詐欺の話題が絶えないが、過去の被害状況について伺う。</p> <p>②消費者生活センター窓口での問い合わせや、対応状況について過去5年間の資料をいただいている。昨年度の相談件数95件、本年度は上半期で65件あり、昨年度の例からも下半期に増加が見込まれるが、相談件数等の情報をホームページ上で掲載できないか伺う。</p> <p>③目耕塾でも取り上げられ反響が大きかったが、次以降も計画できないか伺う。</p> <p>④現在行っている啓発活動について伺う。</p>
		3. 介護について	(1) 新しい総合事業で変わる事	<p>①来年度から予定されている、新しい総合事業(介護予防・日常生活支援総合事業)の進捗状況はどうか、新制度への経過措置が終了する来年4月から燕市では何が変わり、今後どのように情報の公開を含め周知活動を行うのか伺う。</p> <p>②介護予防について一般的に予防体操が中心に行われているが、近年食事の乱れから、サルコペニア(筋肉の減少)と、肥満(体脂肪の増加)が重なって起きる「サルコペニア肥満」が問題になっている。 変形性膝関節症(膝の痛み)の大きな原因ともいわれているが、食育の観点からも啓発活動を進めてはどうか伺う。</p>
			(2) 介護人材について	①燕市介護人材育成事業について、実績の途中経過と見込みについて伺う。
5	樋浦恵美 (一問一答方式)	1. 少子化対策について	(1) 一般不妊治療費への助成について	<p>①現在、燕市では特定不妊治療費助成事業として、体外受精及び顕微授精に要した費用の一部を助成しています。助成額は、特定不妊治療にかかった費用から県の助成額を控除した額の2分の1(上限8万円)とし、県の助成事業を申請し該当になった方が対象です。 しかし、この体外受精に至るまでには、不妊検査をしてタイミング法や人工授精という一般不妊治療を経る必要があり、心身の不安と大きな経済的不安を抱え、子どもが欲しいと願うご夫婦にとっては切実です。 燕市においても、一般不妊治療費への助成をすべきであると思いますが、お考えを伺います。</p>
		2. 市民の安全を守る対策について	(1) 特殊詐欺対策について	<p>①近年、オレオレ詐欺、架空請求詐欺、還付金詐欺等の振り込め詐欺などの被害が後を絶ちません。燕市では、振り込め詐欺や悪質な電話勧誘などの被害から高齢者を守るため、警告メッセージ付き電話録音装置を無料で貸し出すモニター事業を行っています。現在までの貸し出し台数とその効果、今後の取り組みについて伺います。</p> <p>②特殊詐欺被害から高齢者を守るために、他の自治体では詐欺被害への注意を促す振り込め詐欺撲滅手形ポップを配布しています。固定電話の受話器を置く部分に貼るもので、受話器を上げると起き上がり、不審な電話かもしれないと気づかせる仕掛けとなっています。 特殊詐欺に対する防犯意識を高め、一定の効果が望めるのではないと思いますが、お考えを伺います。 (次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
5	樋浦 恵美 (一問一答方式)	3. 「がん教育」の推進について	(1) 「がん教育」の推進について	<p>① 文部科学省は、日本人の死亡原因第1位で、2人に1人がかかるとされるがんを正しく知り、命の大切さへの理解を深める「がん教育」を効果的に行うための教材をホームページで公表しました。来年度から小・中・高校での「がん教育」を全国展開する方針としています。</p> <p>平成27年6月定例会で、がん教育の推進について質問をさせていただきました。教育委員会からは、「命を守る観点から、がん教育について学校現場でどのように効果的な実施ができるかということについて研究していきたい」との答弁がありましたが、その後の経過と今後の対応について伺います。</p>
6	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 公共施設の整備について	(1) 体育施設のトイレについて	<p>① 先日、体育館を利用しているという年配の御婦人から「トイレの便座が冷たくて、心臓が止まるかと思った。何とかならないか。」との指摘を受けた。体育館は災害時には避難場所に指定されてもいる場所である。</p> <p>現在、市内の体育施設における大便器の和式と洋式の割合について伺う。</p> <p>② トイレの洋式化(ウォシュレット・ウォームレット)についての市の考えを伺う。</p>
			(2) 吉田産業会館のトイレについて	① 吉田産業会館のトイレについても別の御婦人から同じような指摘を受けた。この施設は平成27年度の年間利用者数が85,822人と多くの市民が利用している。トイレの洋式化についての考えを伺う。
			(3) 図書館について	<p>① 公共施設の中で、市民が最も多く利用している施設は図書館である。平成27年度の年間利用者数は燕図書館で77,847人、吉田図書館では123,424人である。この2館のトイレの状況を伺う。</p> <p>② 燕図書館は築35年を経過しており、建物の老朽化が随所で見られる。館内の壁・イス等の汚れが目立つが、これまでメンテナンスはされてきたのか伺う。</p>
		2. 「燕市金属酒器乾杯運動」について	(1) 「燕市燕製金属酒器購入支援補助金」交付について	① 補助金交付要綱に沿って補助金は交付されたか伺う。
			(2) 虚偽の答弁について	<p>① 「燕製金属酒器購入支援補助金」について、3月定例会で一般質問を行っている。その時、商工観光部長は、1個あたりの単価について「・・・あとちょっとお高い1万円近くとかというのがございます。」と答弁している。これも違っていることは確認している。では、この時、1万円以上の品物は、どれ位あったのか。それぞれの単価と各個数について伺う。</p> <p>② 9月の決算審査において、担当課長は1番高額な酒器を1個3万円と答弁している。これも、虚偽の答弁であったと認めている。議会を軽んじている証しであろう。このような答弁が許されると思っているのか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
6	タナカ・キン (一問一答方式)	3. 原発の安全性について	(1) 柏崎刈羽原発の再稼働について	<p>①2011年3月11日の福島第一原発の事故から、これまでに14人の議員が原発に関する質問を延べ35回行っている。柏崎刈羽原発の再稼働に関する質問については、市長は泉田(前)知事と考えは同じであるという発言をくり返してきた。</p> <p>平成27年9月定例会の宮路議員の質問に市長は「何度も言うようすけれど、泉田知事と同じ見解に立って、福島第一原発の事故の検証をしっかりと行った上で、その結果に基づいて幾重にも安全対策を講じた後でなければ再稼働そのものの議論をすべきではないという表明をさせていただいています。同じ表明をしている泉田知事については理解されて、なぜ私の表明が理解されないのでしょうか。ちょっとわからないんですけれど、全く同じことを表明させていただいているわけです。決して再稼働をせいか認めるということは一切言っていませんからね。それをちゃんと理解してください。」と答弁しています。</p> <p>ところが、此の度の県知事選挙では、泉田知事のとおり候補を応援するのではなく、再稼働を容認するであろう候補を応援しました。原発に対する認識の変化について伺う。</p>
			(2) 使用済み核燃料について	①使用済み核燃料の最終処分についての認識を伺う。
7	堀勝重 (一問一答方式)	1. 福祉の充実について	(1) 介護福祉について	<p>①直近の介護施設入所待機者数について伺います。</p> <p>②特別養護老人ホームをはじめ介護施設の今後の必要性等について伺います。</p> <p>③介護人材の確保の現状と今後の見通し等について伺います。</p> <p>④在宅介護支援の現状と今後の取り組みや方向性等について伺います。</p>
		2. 青少年の健全育成について	(1) 眠育について	<p>①小中学生児童生徒の睡眠時間の現状について伺います。</p> <p>②直近の小中学生の不登校の実態について伺います。</p> <p>③夏休み、冬休み等、長期休暇明けの不登校者数の割合について伺います。</p> <p>④眠育の必要性について考えを伺います。</p>
		3. 都市整備について	(1) 旧新潟交通電鉄跡地未執行区間の歩道整備促進について	①平成27年12月議会において採択された「請願第4号 旧新潟交通電鉄跡地未執行区間の歩道整備促進について」のその後の進捗状況について伺います。
8	柳川隆 (一問一答方式)	1. 産業振興行政について	(1) 企業誘致のこと	<p>①平成19年度から設置された、企業誘致推進会議の今までの主な活動内容と実績について伺う。</p> <p>②(イ)企業誘致奨励条例 (ロ)産業開発促進条例のここ数年の実績について伺う。</p> <p>③企業立地促進補助金のここ数年の実績について伺う。</p> <p>④(イ)工場等建設資金利子補給制度 (ロ)空き工場等活用促進補助制度のここ数年の実績について伺う。</p> <p>⑤企業誘致に対する今後の取組について伺う。</p> <p>(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
8	柳川 隆 (一問一答方式)	2. 国からの交付金について	(1) 地方創生推進交付金のこと	<p>① 8月10日の新聞報道による交付金配分額一覧表を見ると燕市が627万円、三条市が燕市の約14倍の8,728万円、加茂市が燕市の約3倍の1,703万円となっている。交付率が1/2であるにしても他市との差が大きすぎるように思うが伺う。</p> <p>② 同・新聞記事には県のことも載っている。 昨年10月に決定した「地方創生関連事業交付金」で、本県への配分が1件、2,570万円にとどまり、件数は全国最少、金額は沖縄県に次いで少ないワースト2位。県議会では県の熱意が問題視された。補助金の種類は違うが、県は前回の低迷を踏まえ、今回の推進交付金を積極的に取りに行った。その結果、県には4億6,914万円の交付が決まった。このことをどう思うか伺う。</p> <p>③ 交付金への今後の取り組みについて伺う。</p>
9	土田 昇 (一問一答方式)	1. 農業問題について	(1) 2017年の農業情勢は	<p>① 農水省は11月28日に来年度の都道府県別の生産目標を発表してきたが、新潟県は2016年産よりも5,553トン少ない51万184トンと示されました。 作付面積は1,203ヘクタール減の9万4,304ヘクタールとなっています。詳細については12月下旬に各市町村に配分するとしているが、2018年度より減反が廃止され、燕市として今後どのように対応していくのか伺う。(米以外の作物の作付の対応はどうか)</p> <p>② TPPについてアメリカの次期大統領(トランプ氏)は来年1月20日の「就任初日にTPPを離脱する」と公約しているが、安倍首相は「今後あらゆる機会をとらえて、アメリカ及び他の署名国に国内手続きの早期完了を働きかける」などと述べ、世界の動きを見ない姿勢を示しているが、この間のTPPに対する報道に対してどのような見解を持っているか伺う。</p>
		2. 福島第一原発の汚泥対策について	(1) 道金及び吉田浄水場の現状は	<p>① 平成25年6月議会と9月議会で福島第一原発の事故により燕市の浄水場(道金及び吉田浄水場)にも汚泥がトンパックでの保管量は2,578袋、重量換算で2,714トンが蓄積していると答弁しているが、100ベクレル以下は糸魚川の明星セメントで再利用処理するとしているが、現状はどのような状況になっているか詳細を伺う。</p> <p>② 汚泥処理費については、放射性物質を放出した東京電力に補償請求を行っていきますと答弁されていますが、その内容については、平成24年度で汚泥関連の処理費として支出した費用3,259万6,697円を今月中(平成25年9月中)に東京電力に請求する予定と答弁しているが、その対応と現在までの処理費用についてどうなっているか詳細を伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
9	土田 昇 (一問一答方式)	3. 子どもの貧困対策について	(1) 子どもの貧困の実態調査の実施は	<p>① 子どもの貧困対策の推進に関する法律が平成 25 年に制定されてから約 3 年が経過し、各自治体は手探りで、施策を講じてきたと思うが、子どもの貧困対策は、子ども等に対する教育の支援、生活の支援、就労の支援、経済的支援等の施策を、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されない社会を実現するとしているが、燕市ではどのような施策が実施されてきたのか、又これから実施しようとしているのか伺う。</p> <p>② 新潟県は 11 月 14 日、子育て世帯を対象に初めて実施した「子ども貧困実態調査」の結果を公表いたしました。その内容は 18 歳未満の子どもがいる 3 千世帯の親にアンケートを郵送し、1,695 世帯回収率 56.5%が回答いたしました。</p> <p>調査は全体で約 70 項目、主な設問のうち大学進学については「経済的に受けさせられない」との回答は 19.2%、短大、高専、専門学校の教育は 11.3%が「経済的に受けさせられない」と答えています。</p> <p>このほか、子どもを学習塾や習い事に通わせることについて経済的にできないという回答は「学習塾」では 19%、「習い事」16.6%子どもの衣料、食料の購入では「過去 1 年間に経済的な理由で必要な衣料や食料を買えないことがあったか」という問いに対し「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の回答を合わせると衣料で 22.6%食料で 15.5%でありました。</p> <p>新潟県は今後調査結果を所得階層別などに分析し、具体的な支援策を検討するとしていますが燕市としても増える子どもの貧困、その背景について「実態調査」する必要があると思います。その対策について市長の見解について伺う。</p> <p>③ 子どもの医療費助成事業については現在燕市では中学校卒業までとなっているが、県内でも多くの自治体では高校卒業まで拡大している自治体は県内で 19 の自治体であります。燕市としても早急に実施すべきと思うが市長の見解について伺う。</p>
10	大原 伊一 (一括質問一括答弁方式)	1. 農業競争力強化プログラムについて	(1) 農業競争力強化プログラムの方向性について	<p>① 自民党は 11 月 25 日に、農林・食料戦略調査会、農林部会、農林水産業骨太方針策定 P T、農業基本政策検討 P T、畜産・酪農対策小委員会の合同会議を開き、「農林水産業骨太方針」などを含む「農業競争力強化プログラム」を了承した。</p> <p>会議では、継続検討されてきた規制改革を含む 12 項目の取りまとめとして「農業競争力強化プログラム」と、それを反映させる政府の「農林水産業・地域の活力創造プラン」の改定案について説明があり了承された。と報道されたが担当部長は、このプログラムに対しての感想と本市に農業に対する影響があるとお考えか。</p> <p>② 農業資材の価格改定・農協制度改革など農家の所得向上と消費者の利益を最大化しているが、資材が下落するとそれ以上に農産物の価格が下落するデフレスパイラル的な悪循環になり益々農業経営が困窮する結果になるのではないかと。部長の見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
10	大原 伊一 (一括質問一括答弁方式)	2. 学校給食の地産地消について	(1) 現在の地産地消状況について	<p>①本市における学校給食の地産地消の取り組みについて、合併後どのような取り組みが進められてきたのか。</p> <p>②今後、学校給食における地産地消の取り組みを具体的にさらに進めていく方策はあるのか。</p> <p>③市内飲食店のシェフや調理人による学校給食献立レシピの地産地消に取り組む考えはいかがか。</p>
		3. 市内子供達のサッカー環境整備について	(1) 燕市でのサッカーにおける環境整備の請願について	<p>①6月議会において「燕市でのサッカーにおける環境整備の請願」が多くの同僚議員の賛同を得て願意妥当として可決されたが、当局の検討はどこまで進んでいるのか。</p> <p>②先般、体協とサッカー協会により近郷にあるサッカー場の視察に同行させていただいたが、素晴らしい施設で非常に参考になった。しかし、残念なことに新潟のサッカー場では、当クラブのエースは、燕から通っています。また、長岡では、燕市にサッカー環境が無いということで、子供の夢を叶えるために長岡へ引っ越した家族もいる。</p> <p>こんな話を聞いて「やはり少子化が進んでいる昨今、子供達の夢を叶えるために引っ越しも辞さない時代になっているんだ」と痛感させられました。時代のニーズに応えることが大切だと思われました。この事例についてのお考えを伺う。</p>
11	齋藤 信行 (一括質問一括答弁方式)	1. 空き家の現状及び今後の対策について	(1) 空き家の現状について	<p>①現在、市内の空き家数はどのくらいあるのかお聞きします。</p> <p>②その空き家のうち、周囲への悪影響を及ぼす特定空き家等と認定されたものは何軒あるのか伺います。</p>
			(2) 空き家の利活用について	<p>①空き家も特定空き家になれば解体するしか解決方法はないと思うが、まだ状態の悪くない空き家については、空き家バンクなどを利用しての売却が考えられるが、これまでの利活用の事例がどの程度あるのか伺います。</p> <p>②空き家を何とかしたいと思っている所有者への空き家バンクの周知はどのように行っているのか伺います。</p>
			(3) 空き家の苦情の対応について	<p>①空き家に関する苦情はどのようなものがあるのか。また、その苦情に対する対処方法について伺います。</p> <p>②苦情があった空き家で、所有者が分からない場合はどのように対処するのか伺います。</p>
			(4) 空き家に対する助成制度について	<p>①空き家の解体や改修などについて、どのような助成制度があるのか伺います。</p> <p>②他の自治体は空き家に関して、どのような助成制度を行っているのか伺います。</p>
		2. 農政について	(1) チャレンジ・ファーマーについて	<p>①今年度のチャレンジ・ファーマーの助成制度についての現状を伺います。</p> <p>②農家サイドからチャレンジ・ファーマーについて要望、苦情などあったのか、または何もなかったのかを伺います。</p> <p>③来年度のチャレンジ・ファーマーの助成制度は、今までと同じなのか違うのか伺います。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	齋藤 信行 (一括質問一括答弁方式)	2. 農政について	(2) 来年度の農業政策について	①来年度の農業政策について後継者対策などを含めて市として新しい政策を考えているのか伺います。 ②農業の六次産業などについては市で産業界などとのタイアップを含めて、今後の燕の農業の産業化など他市の例などを参考にして、農業者への情報の学習会など考えられないか伺います。
12	大岩 勉 (一問一答方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1) 米山新知事への対応について	①米山県知事の所信表明は慎重姿勢が見られたように思うが、燕市長としてはどのように感じられたのか考えを伺う。 ②県とは、連携・協力が不可欠と思うが、燕市長として強い姿勢で主体的に直接話し合う場が早急に必要であり、県知事選挙後の今だから「千載一遇」な機会と思われるが考えを伺う。 ③基幹病院整備問題や、燕労災病院・県立吉田病院の今後の在り方などについて、燕市としての発展のため万全な対応・対策を県に強く求めていくべきでないか伺います。
		2. 燕市選挙管理委員会の姿勢について	(1) 新潟県知事選挙における期日前投票率について	①期日前投票は着実に浸透しております。参院選に続き県知事選挙でも日本一輝く燕市は県下で最も低い聖籠町に続き不名誉な第2位、選挙管理委員長は「薄志弱行」改善努力する姿勢がまったく見られないと思いますが考えを伺う。
			(2) 期日前投票所をなぜ増やせないのか	①期日前投票所を燕市役所1カ所だけでなく、せめて隣の三条市のように旧燕・吉田・分水地区に各1カ所、試験的に設置してみたらどうでしょうか考えを伺う。 ②市役所の期日前投票所は必要以上に人が多いのではないかと。投票に来たが入りにくいと言って帰られた人がいたが、なぜ適切な対応をされなかったのか伺う。
		3. パラリンピックに向けての学校教育について	(1) 障がい者の芸術活動の盛り上げについて	①国ではアートの発掘、身体、知的、精神障がい者による絵画や彫刻のほか音楽、ダンス、演劇などを幅広く振興に努力する方向であります、燕市としての具体的な考えを持っておられるのか伺う。
			(2) 障がい者スポーツへの関心について	①出前授業や体験学習により、障がい者スポーツへの関心を知り「認め合うことの大切さ」を学ぶイベントなども各地で盛んであるが、主催する「日本財団パラリンピックサポートセンター」のことは確認されているか、燕市の教育現場での現況を伺う。

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
13	宮路 敏裕 (一問一答方式)	1. 柏崎刈羽原発の再稼働問題について	(1) 原発再稼働の基本的認識について	<p>①10月の新潟県知事選挙は柏崎刈羽原発の再稼働問題が最大の争点となり、選挙結果は県民並びに燕市民の多数が再稼働反対の意見であることが明白に示されたと思うが、認識を伺う。</p> <p>②米山新知事は原発問題について、県民の安全を最優先としてきた泉田前知事の路線を継承し、福島第一原発事故の原因の徹底的な検証、原発事故が住民の健康と生活に及ぼす影響の徹底的な検証、万一原発事故が起こった場合の安全な避難方法の徹底的な検証がなされない限り、原発再稼働の議論は始められないという立場を堅持すると、所信表明演説で述べ、さらに、質疑の中で、それらの検証が不十分で県民の命と暮らしが守られない現状において原発の再稼働は認めることはできないという立場であり、これを堅持して対応していくと表明している。市長は同じ立場か、所見を伺う。</p>
			(2) 本市として原発事故に備える安全・安心確保の施策について	<p>①本市では原子力災害に備えた「燕市避難計画」の策定にあたり、本年4月には30キロ圏内の住民説明会が行なわれているが、会場毎の出席人数と質疑で出された質問や意見など具体的内容を伺う。</p> <p>②原子力災害時の必要な避難手段について、30キロ圏内住民へのアンケート調査を実施しているが、その結果明らかになった問題や課題などは何か伺う。</p>
		2. 医療福祉の充実について	(1) 妊産婦医療費助成の充実について	<p>①本市で実施している妊産婦医療費助成は、4月から大きく拡充されたが、その結果どのような成果が上がっているのか、他の市町村と比較し、拡充の内容やそこに至る経過とともに伺う。</p> <p>②現在の周知方法や今後いつそのPRの方策は考えているか伺う。</p> <p>③新潟市では本年9月から、助成の方法を対象当事者の利便性を考えたやり方に変えたが、承知しているか認識を伺う。</p>
14	山崎 光男 (一問一答方式)	1. 若者の視点や発想、アイデアを取り入れた燕市のまちおこしについて	(1) 新たな観光ガイドマップの作成について	<p>①昨今、各自治体で高校生・大学生・専門学校生を含む、若者の柔軟な発想やアイデアをまちおこしに生かそうという取り組みが多く見られる。その一例として本県でも西蒲区や新発田市、胎内市で学生が主体となってオリジナリティーあふれる観光ガイドマップを作成し、観光客に好評である。燕市でもこのような取り組みが出来ないか考えを伺う。</p>
			(2) 「燕ジョイ活動部」について	<p>①燕ジョイ活動部は、16～29歳までの若者が、つばめ若者会議研究生として登録し、本年7月に活動をスタート、8月24日には、若新雄純氏による講演会も行われた。しかしHPの活動内容では「具体的に何をやるかは決まっていません」とあるが、今後燕ジョイ活動部を燕市のまちおこしにどうつなげていくか当局の考えを伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
14	山崎光男 (一問一答方式)	1. 若者の視点や発想、アイデアを取り入れた燕市のまちおこしについて	(3) 「越後くがみ山酒呑童子行列」の今後について	①今年の酒呑童子行列に私も参加したが、26人の高校生がスタッフとして活動、若者のアイデアを注入したまちおこしの新たな一面も見られた一方、歩くコースの設定や距離、一体感などで盛り上がりには欠ける面も散見された。来年以降、酒呑童子行列をどのようなイベントとして位置付けていくか考えを伺う。
		2. 燕市で拉致問題を考える取り組みについて	(1) 拉致問題に対する燕市の見解について	①拉致は人の人生を大きく狂わせる重大な人権侵害である。今年初めて「忘れるな拉致 11.15 県民集会」に行き、米山知事の発言もあった。今年で横田めぐみさんが拉致されて39年もの長い年月が経過、関係者も年々高齢化している。一刻も早い解決につなげるためにも、日本国民が一丸となってこの問題を真剣に考えるべきと思うが、燕市の見解を伺う。
			(2) 燕市での「拉致問題を考える巡回パネル展」の開催について	①拉致問題を風化させないさまざまな取り組みが、日本各地で行われている。その例として、講演会の開催や署名活動、舞台公演や映画の上映などがあるが、巡回パネル展もその一つである。新潟県内でも既に各地で巡回パネル展が開催されているが、燕市民に拉致問題の啓発を図るためにも、本市でも開催出来ないか当局の考えを伺う。
15	山崎雅男 (一問一答方式)	1. 大河津分水路河口部の抜本改修と右岸堤防浸透対策事業について	(1) 水害から市民を守る大河津分水路改修事業	<p>①大河津分水路改修事業は、上・中流の洪水対策として長岡・燕両市内において放水路の拡幅などを実施する大プロジェクト事業。</p> <p>事業区間は河口から上流側の約 3.3 キロで総事業費 1,200 億円を見込み、事業期間は 2015 年度(平成 27 年度)～2032 年度(平成 44 年度)の 18 年間で予定している。平成 27・28 年度の取り組み内容と今後の取り組み予定を伺う。</p> <p>②山地部左岸掘削や老朽化している第 2 床固改築等を実施し、川幅を約 100m 広げて、現在の約 180m から 280m に拡幅して今の野積橋 211m から 300m の橋の長さになる予定。架け替え位置、形式等や工期完成、供用開始予定について伺う。また、老朽化しているといわれている第 2 床固改築内容について伺う。</p> <p>③大河津分水路右岸堤防浸透対策事業。浸透に対して質的強化が必要となり、万一堤防が決壊すると氾濫による影響は新潟市・燕市などで、浸水面積約 143 ㎥、浸水戸数約 9,000 戸の被害となり、燕市役所・県立吉田病院・燕警察署等の基幹施設や国道 116 号・国道 289 号や JR 越後線・JR 弥彦線等の幹線交通網にも大きく影響し甚大な被害が予想されている。大河津分水路右岸堤防浸透対策事業として堤防の整備取り組み内容と掘削残土の利用を伺う。</p> <p>④1000 万 m<sup>3</sup>を超える大量の掘削残土が発生するともいわれている中で、堤防道路拡幅に使用以外の残土利用に対してどのような協議がされているのか伺う。</p> <p>(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
15	山崎 雅男 (一問一答方式)	2. 障がい児・者及び家族の生活と尊厳を守ることについて	(1) 重症心身障がい児・者施設等の充実について	<p>①医療行為を必要とする重症心身障がい児・者が住み慣れた地域で安心して暮らせることは望ましいことである。献身的に介護にあたっている家族の身体的疲労の蓄積や、不安を軽減し、障がい児・者の在宅で生活を支えるため、必要な障がい福祉サービスの充実を図ることが重要かと思われるが、燕市において医療的ケアが必要な重症心身障がい児・者の人数と市としての取り組み、対応について伺う。</p> <p>②重症心身障がい児・者を抱える家族の緊急時対応として障がい児のショートステイ施設を切に願っている。以前、一般質問で市長より市単独で解決するには限界があり、広域的施設の対応は近隣首長との話し合いを行い、県にも伝えたいとの答弁。その後、近隣首長、県からはどのような判断が示されたのか伺う。</p> <p>③重症心身障がい児・者は学校卒業すると働くことができなく、毎日家で過ごすしかなく、保護者は仕事を辞め日々の介護に専念しなければならず、親子家族は社会から孤立状態に陥ってしまうことが実態であり、障がい児を持つ保護者は将来のことを考えると不安も増していると伺っているが、現状認識と対応策について伺う。</p>
		3. 不登校と断続的欠席の現状について	(1) 不登校と断続的欠席の実態について	<p>①学校はすべての児童・生徒が安心して、自己存在感や充実感が感じられるよう、登校したくなる魅力ある学校づくりを推進することが極めて重要かと思われるが、教育委員会・学校側の不登校、断続的欠席の児童・生徒に対して基本的考え方について伺う。</p> <p>②不登校問題への対応は学級担任のみの対応には限界があり、カウンセリング等の専門的知識、経験等を必要とし問題解決に向けて、度重なる家庭訪問を行うなど時間を要しているものと思う。燕市内の適正指導員の取り組み状況と小中学校児童・生徒の不登校の実態と個々の性格及び置かれた状況が違うかと思われるが、対応策について伺う。</p> <p>③病気、けが等以外の不登校にはカウントされない理由なき断続的に学校を欠席している児童・生徒の現状と学校側の具体的取り組み内容を伺う。</p>
16	小林 由明 (一問一答方式)	1. 防災について	(1) 平成28年11月22日の地震対応について	<p>①11月22日に発生した地震において、燕市の防災体制は機能したか。</p> <p>②住民への情報提供に改善の余地はあるか。</p>
			(2) 平成28年11月22日の断水について	<p>①11月22日市内で断水が発生したが、燕市水道の対災害力の実態はどの程度のものなのか。</p> <p>②市内いくつかのコンビニエンスストアでは、買い占めのような状況が発生し飲料水が売り切れることがあったようだが、住民の非常食等の備蓄が進んでいない実態が見取れる。本来的に、住民自身が自らの命を守るために数日間の非常食を確保すべきであり、最低限飲料水の確保程度は、確実に住民個々で取り組まなければならないと考えているが、それを推進する方策はあるか。</p> <p>(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
16	小林由明 (一問一答方式)	1. 防災について	(3) 住民の防災意識の向上について	<p>①市内で実施されている防災訓練は効果をあげていると考えているか。</p> <p>②地域主催、行政主催の防災訓練が実施されているが、それぞれがさらに効果的に行われるための課題はなにか。</p> <p>③災害時における情報取得の重要な手段として、防災行政無線に頼る住民が未だ大変多く見受けられる。防災行政無線が果たせる役割の限界が理解されていないうえ、その他の情報取得手段の定着がまだまだ進んでいない。工夫を重ねさらに取り組みを進めていくべきだと考えるがいかがか。</p>
			(4) 民間事業所の防災体制について	<p>①市内民間事業所における防災減災の取り組み状況はどうか。</p> <p>②住民の生活基盤である経済活動の速やかな復旧のために、事業所の防災体制整備をしっかりと推進していく必要があると思うが、市はどのように考えているか。</p>
		2. 子どもたちを取り巻く環境について	(1) 部活動を取り巻く環境について	<p>①市内中学校では、部活動と社会体育、加えて保護者会主催の練習、遠征などが、それぞれにはっきりとした線引きのないまま行われ続けていると指摘されているが、教育委員会はその実態を把握しているか。またそれによって、保護者の学校に対する不快感や、地域の社会体育団体と学校との対立にも似た状況が発生していることを把握しているか。</p> <p>②部活動と社会体育、保護者会主催の練習等の線引きのあいまいさなど、現在の部活動を取り巻く環境にいじめや不登校へとつながる要素があり、実際にそれが発生していることを把握しているか。</p> <p>③学校、社会教育課、保護者それぞれ三者三様に取り組んでいる現状を検証し、子どもたちの置かれている環境が改善されるよう取り組むべきではないか。</p>
			(2) 子どもたちの成長と学力の向上について	<p>①核家族化、共働き世帯・離婚による一人親家庭の増加など、子育て環境の大きな変化や家庭の経済状況などから、家庭における教育・子育ての限界が指摘されている。</p> <p>子どもたちの成長を守るとともに、子どもたちの学力レベル向上のために、教育行政と福祉行政を統合した包括的な支援体制の構築と、さらなる取り組みの強化が必要と考えるがいかがか。</p> <p>②子どもたちの社会性を育むために、地域社会の果たす役割は極めて大きなものがある。まちづくり協議会や地域の伝統的行事の持つ可能性やその力をしっかりと引き出し、地域社会における教育環境を向上させるべきではないか。</p>
		3. 市民のまちづくり参加について	(1) まちづくり協議会の今後について	<p>①市はまちづくり協議会の持つ可能性をどのように考え、それを引き出すために、どのようなことができると考えているか伺いたい。</p> <p>②まちづくり協議会の運営に若い方の関わりが極めて少ないと感じている。よりよい地域社会実現のためには未成年者も含め、より幅広い世代からまちづくり協議会の運営に加わってもらわなければならないと考えているが、その運営を支援する市としてどのように考えているか。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
17	藤井 秀人 (一問一答方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1) 共助の実現をどのように考えられているのか伺いたい	① 地域コミュニティー構築のためには、共助の実現が必要と考えるが、市長は具体的にどのように考えられているのか伺いたい。
		2. 自治会、まちづくり協議会について	(1) 自治会、まちづくり協議会の実状について	① 共助の実現には、自治会、コミュニティー組織であるまちづくり協議会の協力が必要であると考え、市全体の今現在の自治会の数とまちづくり協議会の数はどのようになっているのか伺いたい。 ② 自治会の世帯数の大小がある中で最少と最大の数を伺いたい。また、まちづくり協議会での協議会別自治会の数、世帯数を伺いたい。 ③ まちづくり協議会において、発足時より増えた事業は何かあったのか。この先も任せる事業を考えているのか伺いたい。 ④ 自治会に属していない人数は市内にどれくらいあるのか。また、その人達に対してゴミ出しや、広報の送付はどのように対応しているのか伺いたい。 ⑤ 人口減少の状況の中、集落維持も難しくなってきた中で各自治会の人口の推移は把握されているのか。また、人口増加地域はあるのか伺いたい。 ⑥ よく市民の方より自治会とまちづくり協議会との違いがよく解らないという声を聞くが、発足して10年を経過し市民の認識は深まったのか考えを伺いたい。
18	長井 由喜雄 (一問一答方式)	1. 中学校の部活や少年野球などにおけるプロテクター使用と携行型AEDの普及について	(1) 部活動や少年野球でのプロテクター使用について	① 平成24年12月議会で、野球部などにおける部活動中に起こることが多い「心臓震盪」を防ぐ手立てとして「プロテクター」の装着を進めることを提起した。当時の主幹からは「胸部保護パットを始めとした予防策については、今後の国の動向や医師会の意見等を参考に検討を進めていく」との答弁であった。その後この問題はどのように展開されたのか伺う。
			(2) 学校行事や部活動、遠征試合などでの携行型AEDの設置、活用状況について	① AEDが収納ボックスに収められている施設などでは、施設敷地内行事のときには活用も容易だと考えるが、校外部活動や遠征試合などでの安全対策はどうなっているか。携行型AEDがその場にあるという状況になっているか伺う。 ② 学校休業日などで、グラウンドなどを使用する場合の安全対策は十分なのか伺う。
		2. 今後の下水道整備について	(1) 現在進められている下水道整備は今後どうなっていくのか	① 下水道整備事業については、国による「汚水処理整備構想」によって現在の下水道整備に大きな変更が生じると聞く。具体的には国はどのような方針を示し、自治体の下水道整備はどのような変更が求められるのか伺う。 ② 「汚水処理整備構想」のまま下水道整備が行われると、既設および新設の下水道を利用できる世帯と、そうではない世帯でどのような差が生じてしまうことになるのか。費用負担の点でもどのようになると予想されるのか伺う。 <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
18	長井由喜雄(一問一答方式)	2. 今後の下水道整備について	(1) 現在進められている下水道整備は今後どうなっていくのか	③市は「移住家族支援事業補助」や「定住家族支援事業補助」などの制度を実施している。燕市の将来にとってこれらの政策は一定の実効性のあるものであると思うが、燕市で長年暮らしてきた市民への住環境支援も疎かにしてはならないことである。下水道事業の将来政策の中で、これらの世帯支援をどう考えていくのか伺う。
			(2) 合併浄化槽の設置補助について	①燕市は平成22年度まで「認可を受けた事業計画に定められた予定処理区域」外を対象として合併浄化槽の設置補助を実施してきた。その数は年間40件以上にのぼった。その後この補助制度を打ち切ったが、これは汚水処理整備を遅らせ、下水道整備地域との格差も生じさせることとなったのではないかと。来年度よりこれを復活させることを求めるがいかがか。
		3. 燕製金属酒器購入支援補助金交付事業について	(1) 補助金交付要綱に沿った交付となっているのかについて	①「燕製金属酒器購入支援補助金交付要項」では「乾杯の習慣を普及し、地域文化として確立する運動の普及促進を図るため」と規定しているが、酒類の提供をしない事業者にも補助金を交付している。交付要綱の「趣旨」とは相容れないものではないのか。どのような経緯でこのような交付となっていたのか伺う。
19	吉田勝利(一問一答方式)	1. 新商品新技術開発支援事業について	(1) 新製品開発と開発後の製品について	①新製品開発に関する今年度の申請件数について。 ②新製品開発に関する申請会社数は。 ③開発事業完了後は速やかに実績報告書等を提出してくださいと”実績報告”を求めています。試作現品の提出のことはどうなっておりますか。 ④これまでの補助金交付された件数とその現品はどうなっておりますか。